

Usefulness of the QuantiFERON test for the diagnosis of tubercular uveitis and the predictions of response to antituberculosis treatment

Danjou W, Pradat P, Jamilloux Y, Gerfaud-Valentin M, Kodjikian L, Trad S, Seve P.
Br J Ophthalmol. 2023 Apr;107(4):500-504.
doi: 10.1136/bjophthalmol-2021-318868. Epub 2021 Oct 28.

QuantiFERON は結核感染の有無を確認する際に用いる有用な検査方法ですが、QuantiFERON が陽性であっても必ずしも結核性ぶどう膜炎とは限りません。本研究では、大規模なぶどう膜炎患者コホートにおいて、結核性ぶどう膜炎の診断と抗結核治療（ATT）反応予測の両方における QuantiFERON 検査の有用性を評価した論文です。単一施設の後向き研究であり、ATT に反応したぶどう膜炎患者と反応しなかったぶどう膜炎患者の間で調整 OR（aOR）、QuantiFERON 試験の感度（SE）、特異度（Sp）、陽性および陰性適中率を算出しています。

QuantiFERON 検査で陽性と判定された 35%が結核性ぶどう膜炎と診断され、全員が 6 カ月間 ATT を受け、71%が ATT に反応していました。QuantiFERON 検査値が 2 IU/mL を超えると、ATT に反応する可能性が高く、結核ぶどう膜炎の診断において Sp と SE を最大にする最適な閾値は 4 IU/mL でした。

本研究により、QuantiFERON 陽性の 35%程度が結核性ぶどう膜炎であり、QuantiFERON が陽性であっても結核性ぶどう膜炎でない確率が 65%もあることが分かりました。また QuantiFERON を用いる結核性ぶどう膜炎の診断では、通常基準値 0.35IU/ml を大きく上回る 4IU/ml が有用であったことが提言されています。

（文責：東京医科大学 坪田 欣也）